

めてみてください。」

伊策は、その通りだと思いました。ことわられたのですが、それでも元気が出てきました。聞きとりにくい会津の方言で語る伊策のまごころが、局長さんにわかってもらえたことを感じました。「さあ、これからだ。」という気持ちで、文部省の建物を後にしました。割り算九九を覚えるのに苦しんでいるたくさんの子どもたちが、自分の研究のひろまるのを待っているのか、という熱い思いにふるえながら空を見あげると、西の夕焼けをつき破るように富士山が頭をのぞかせていました。

### 道の終わりに

昭和六年（一九三一年）文部省は、甲種、乙種の二種類の珠算の教科書を発